

無脊椎動物（昆虫類）

チョウ目 蝶類

渡辺通人¹

目的

富士北麓地域に生息する昆虫類の中で、古くからデータが蓄積され、幼虫の食餌植物(食樹や食草)などその生態的特性の大部分が明らかされているグループである蝶類を対象として、生息種リストの作成と注目種の分布の変遷や生態的特徴から富士北麓地域全体の特徴を明らかにすることを目的として調査を行なった。

調査方法

現地調査

調査範囲は図1に示した。広いので林道を中心に移動しながら記録し適宜徒歩で確認する方法と、特定の地域を重点的に定期的に徒歩で巡回して確認する方法を併用した。2001年は全体の様子を調べるために林道を移動する方法を中心に、2002年は季節による変化を知ることも考え5ヶ所の重点地区での調査を中心とした。

文献調査および過去の調査データの検索

甲州昆虫同好会の早見正一氏が作成したデータベース(静岡昆虫同好会誌「駿河の昆虫(No. 1~180 1953-1997年)」と甲州昆虫同好会誌「山梨の昆虫(No. 1~42 1976-1998年)」のデータを中心としたもの;筆者も文献を提供して協力))を同氏の了解を頂き基礎データとし、それに筆者を含む甲州昆虫同好会員によって1995年から7年間実施された「山梨県環境資源調査(昆虫類)」の記録と今回の調査データを合わせて、「富士山北部地域蝶類データベース(データ数8409件)」とした。また、これらに未掲載の最近の重要な記録については出典を明記して引用した。

調査日

現地調査日は以下のとおりである。

2001年 8月 9日・10日・12日・19日・23日・
27日・29日
9月 2日・4日・16日・27日
10月 12日・20日
2002年 4月 29日
5月 6日・14日・22日・30日
6月 2日・6日・28日・30日
7月 2日・4日・7日・9日・12日・14日・
16日・18日・20日・23日・26日・
28日・29日
8月 1日・2日・11日・12日・13日・
14日・15日・17日・25日
9月 1日・10日・20日・29日
10月 14日・25日

この他、すでに以下の予備調査を実施していた。

2001年 4月 20日
5月 25日
6月 4日・8日・18日・20日・26日・
29日
7月 1日・3日・6日・11日・13日・16日・
20日・22日・23日・30日

なお、甲虫類(特にカミキリムシ類)を中心に調査していただいた宮下泰典氏には、2001年9月8日、9月16日、10月13日、2002年5月6日、5月14日、5月27日、7月23日、7月27日、8月3日、9月28日、11月4日、同じく白須英樹氏には、2001年8月3日、9月2日、9月16日、9月17日、2002年5月25日、7月4日の調査時にそれぞれ記録された蝶類データも提供いただき調査リストに加えた。

結果および考察

富士山北部地域確認種リスト

富士山の地域をどこまでとするかには考え方に多少の違いがあるようだが、富士火山噴出物の占める範囲と厳密に考えると富士山噴火によっ

¹ 河口湖町自然共生研究室・NPO 富士自然保護研究所

て出来た溶岩流上は全て富士山となるから、溶岩流の流れていった大月市猿橋まで富士山の範囲となってしまう。そこでほぼ富士火山噴出物の占める範囲(高橋 2002)と考えるのが妥当と思われる。溶岩流が狭くなっている地域では、その上に周囲の山地から河川等によって運ばれてきた扇状地が発達し、純粹の溶岩流だけの部分は非常に狭く、周辺山地の地質に近くなっている部分(特に西桂町から大月市にかけての地域)がかなりあると考えられるからである。そこで、ここでは「富士山」の範囲を富士火山噴出物の範囲で猿橋溶岩流の富士吉田市までの範囲と決め、その範囲に該当する環境省三次メッシュ内で過去に記録されたものをリストアップすることとした。しかし、メッシュ番号だけで追って行くと、1,000~140 万年前の造山運動で出来た褶曲山脈といわれている周辺の天子・御坂・三ヶ峠・道志山塊の一部も含まれてしまうので、地名から判断してこれらの山地の記録と判断されたものを除き、曖昧なものは記録者に出来るだけ確認し、山梨県に属す範囲を今回の富士北麓地域(富士山北部地域; 以後「北部地域」と呼ぶ)の記録として扱った。

この範囲内で、「富士山北部地域蝶類データベース」を基本として、これに未掲載の最近の重要な記録を一部加えて一覧表にしたものが表1の「富士山北部地域で記録された蝶類一覧」である。

この中で「富士山」他の欄に示したのは、約30年前に作成された最初の本格的なまとめである「富士山の蝶類」(高橋 1971; それ以前の文献記録に現地調査記録を加えて作成された)に記録されていた種に、その後記録された種(□印)を加えたリストである。1971年当時北部地域で記録されていた種を◎、その当時はほとんど静岡県側の南部地域で記録されていた種を○で示した。1971年当時、北部地域では101種が、富士山全体では115種が記録され、ミヤマシロチョウ *Aporia hippia japonica*、ウラジロミドリシジミ *Favonius saphirinus*、ジョウザンミドリシジミ *Favonius aurorinus*、クロヒカゲモドキ *Lethe marginalis* は真偽が疑わしい種類として扱われてきた(高橋 1971)。その後、1980年にカラスシジミ *Strymoidia w-album* が鳴沢村で記録され(諏訪 1981)、故稲葉茂氏の標本に富士宮市産のジョウザンミドリシジミがあることが確認され(高橋・諏訪 1990)、1980年に上九一色村でスギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii*

sugitanii が記録され(清 1980)、富士山全域では118種となるとされてきた(渡辺 1989、高橋 2002)。

しかし、北原(2002)は、「富士山全体(静岡県側も含む)では、現在までに118種の蝶類が記録されている」としながら、その種名を明示しておらず、高橋(1971)や諏訪(1978)に掲載されているツマジロウラジャノメ *Lasionmata deidamia interrupta* や、渡辺(1989)、高橋(2002)に挙げられているカラスシジミは生息していないとした。

また、清(1978)では、スジグロチャバネセセリ *Thymelicus leoninus leoninus* は富士山麓には分布しないとされていたが、これは「富士山」をどこまでとするかの見解の相違だけの問題であり、この中で扱われている富士吉田市神田堀は明らかに富士山溶岩流上の記録と考えられ、今回これ以外にも7地点が確認されたので一覧に加えた。また、これ以外に1例しか記録のない種で目撃記録としてダイセンシジミ *Wagimo signatus*、ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* があったが、ダイセンシジミは最近富士山北部地区内で採卵されたこと(宮下泰典氏私信)、ナガサキアゲハは近距離で目撃され信憑性が高いことからリストに加えた。これ以外の1例しかない記録も全て採集記録であるのでリストに入れた。

ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus lamprospilus* は、高橋(1971)では、海拔1,000m以下の樹木の周辺にみられるとして記録地点は明記されていなかったが、今回のデータベースにも記録がなかった。また、高橋(1989)のホソバセセリを含むまとめにも北部地域の記録はなかった。しかし、日本鱗翅学会関東支部・甲州昆虫同好会共催2002年秋の集い講演要旨のとおり、2002年に早見正一氏が採集された(早見 2002)のでリストに加えた。

これら以外で、これまでのまとめ(高橋 1971, 2002、渡辺 1989)で入れてこなかった種は、これまで迷蝶とされてきたカバマダラ *Anosia chrysippus chrysippus*、ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda ismene* の2種と、2001年に初めて確認されたナガサキアゲハの計3種である。最近、静岡県では、ナガサキアゲハの土着(高橋 2000 他)やカバマダラの一時的発生(竹内 1999、入交・山野 2002)も記録されているので、今回は迷蝶を除いたリストではなく、これらも含めた

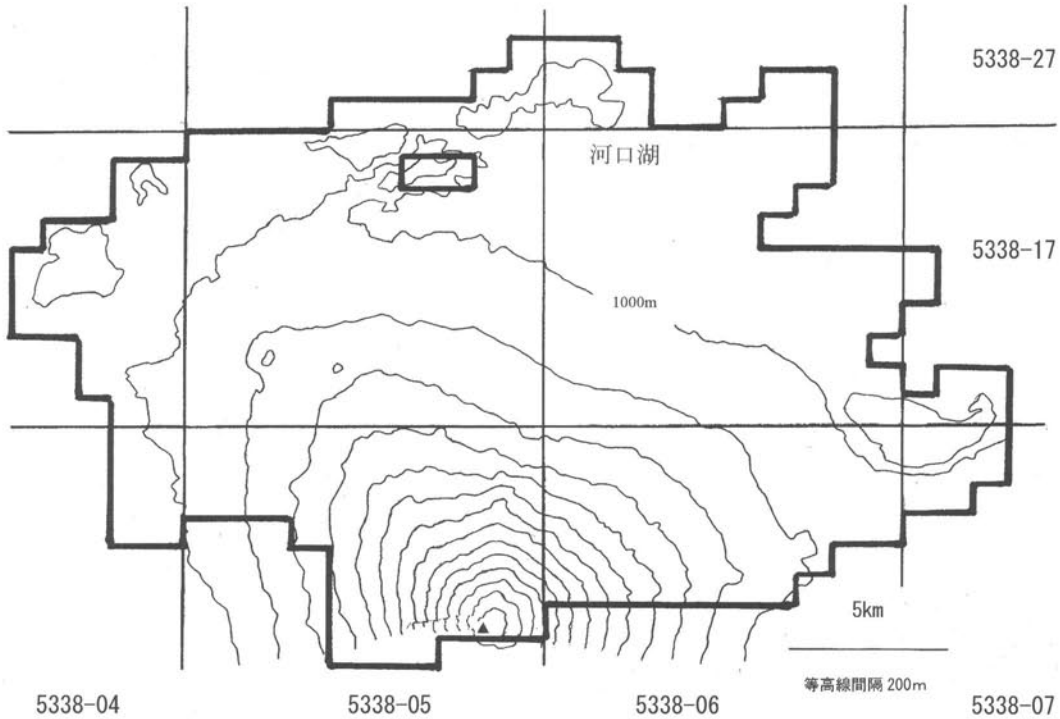


図1 調査範囲（富士山北部地域）

太枠が調査範囲 6桁の数字は国土2次メッシュ

記録種のリストとした。

以上の結果、富士山北部地域で記録された種は119種となる。すでに筆者は「富士山北麓の蝶類」の中で、これまでに確認された種類（2002年3月現在）として、今回のリストでのホソバセセリ、ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata*、ダイセンシジミ以外の116種を挙げていた（渡辺2002）が、今回の調査で3種が加えられたことになる。

一方、高橋（1971、2002）で報告された富士山の北部地域以外で記録された種はギフチョウ *Luehdorfia japonica*、シルビアシジミ *Zizina otis emelina*、ウラナミジャノメ *Ypthima motschulskyi nipponica*、ジョウザンミドリシジミの4種であるので、富士山地域全体で記録された種は合計123種となる。これら4種の内ギフチョウ、シルビアシジミ、ウラナミジャノメの3種は富士山地域の静岡県側でも絶滅してしまった可能性が高いと考えており、ジョウザンミドリシジミも前述のとおり1例しか記録がないので、現在富士山地域に生息する種のほとんどは北部地域に生息しているといえる。

次に、これまで北部地域で記録された119種を

発生・越冬という観点から分けると次の6つとなる（表中の「現在の生息状況」参照）。

- a. 土着（発生・越冬が日常的に北部地域で行なわれていると考えられる種；発生はするが越冬は出来ない可能性が高い種には越冬できず？と表示）：次のb-fに含まれない104種
- b. 土着？（周辺山地では発生や越冬が確認されており、北部地域でも発生している可能性が高い種）：スジグロチャバネセセリ、ゴマダラチョウ *Hestina japonica*、オオムラサキ *Sasakia charonda charonda* の3種
- c. 迷入（北部地域以外で発生して北部地域に入ってきているが、北部地域では発生・越冬が出来ないと考えられる種）：アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum*、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens*、ウスイロコマチョウの4種
- d. 迷入？（周辺地域では発生や越冬が確認されているが、北部地域で発生・越冬しているかはっきりしない種）：ホソバセセリ、ジャコウアゲハ *Byasa alcionous alcionous*、ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius hyperbius*、ウラナミアカシジミ、ツマジロウラジャノメの5種で、前の

表1 富士山北部地域で記録された蝶類一覧

NO.	科・種名	現在の生息状況	備考	調査記録			貴重種など					
				「富士山」他	環境資源調査	本調査記録データ	環境省 2000	東京西部 1998	埼玉 2002	神奈川 1995	長野 1983	
セリチョウ科												
1	チャマダラセリ	土着	生息地狭小	◎	☆	★	63	CR+EN				貴重
2	ミヤマセリ	土着		◎	☆	★	79			NT1		
3	ダクイモウセリ	土着		◎	☆	★	72					
4	アオハセリ	土着		◎	☆	☆	12					
5	キンイチョモンシセリ	土着		◎	☆	★	128	NT		NT2		減少
6	ホシチャハネセリ	土着		◎	☆	★	58	VU	EW	EX		EX
7	ホソハセリ	迷入?	生息地狭小	◎			1			NT2		
8	スシクロチャハネセリ	土着?		◎	☆		8	NT				EX
9	ヘリクロチャハネセリ	土着		◎	☆	★	62					危惧
10	コキマダラセリ	土着		◎	☆	★	100					危惧
11	ヒメキマダラセリ	土着		◎	☆		81					
12	アカセリ	土着		◎	☆	★	54	VU	EW	EX		
13	キマダラセリ	土着		◎	☆		23					
14	コチャハネセリ	土着		◎	☆	★	56					
15	オオチャハネセリ	土着		◎	☆	★	11					
16	チャハネセリ	土着(越冬出来ず?)	侵入のみ?	◎	☆		18					
17	ミヤマチャハネセリ	土着		◎	☆	★	24					
18	イチョモンシセリ	土着		◎	☆	★	169					
アゲハチョウ科												
19	ウスバシロチョウ	土着	分布拡大	◎	☆	★	191					
20	ジャコウアゲハ	迷入?	侵入のみ?	○	☆		5			NT1		
21	アオシロアゲハ	迷入	侵入のみ	○	☆		12					
22	キアゲハ	土着		◎	☆	★	102					
23	アゲハチョウ	土着		◎	☆	★	79					
24	オナカアゲハ	土着		◎	☆	★	71					
25	クロアゲハ	土着		◎	☆		24					
26	ナカサキアゲハ	迷入	侵入のみ	○	☆		1					
27	モンキアゲハ	迷入	侵入のみ	○	☆		8					
28	カラスアゲハ	土着		◎	☆	★	155					
29	ミヤマカラスアゲハ	土着		◎	☆	★	74					
シロチョウ科												
30	ヒメシロチョウ	土着		◎	☆	★	230	VU	EW			危惧
31	キチョウ	土着		◎	☆	★	211					
32	ツマクノキチョウ	絶滅	侵入のみ?	◎			5	VU	EW	VU		危惧
33	ヤマキチョウ	土着		◎	☆	★	218	NT		EX		危惧
34	スシホソヤマキチョウ	土着		◎	☆	★	182					危惧
35	モンキチョウ	土着		◎	☆	★	263					
36	ツマキチョウ	土着		◎	☆	★	75					
37	モンシロチョウ	土着		◎	☆	★	125					
38	スシクノシロチョウ	土着		◎	☆	★	334					
39	エゾスシクノシロチョウ	土着		◎	☆	★	208					
シジミチョウ科												
40	ムラサキシジミ	土着	分布拡大	○	☆	★	14					
41	ウラコマダラシジミ	土着		◎	☆	★	73					
42	ウラキンシジミ	土着		◎			5			VU		
43	ムモンアカシジミ	土着	生息地狭小	◎	☆		3		EW	CR+EN	EX	貴重
44	アカシジミ	土着		◎	☆	★	12					
45	ウラナミアカシジミ	迷入?		○			1			VU		減少
46	オナカシジミ	土着		◎			11			NT1		危惧
47	ミスイロオナカシジミ	土着		◎	☆		19					
48	ダクイセシジミ	土着	生息地狭小	◎			1					
49	ミドリシジミ	土着		◎	☆		23			NT1		減少
50	メスアカミドリシジミ	土着		◎	☆		34					
51	アイノミドリシジミ	土着		○			4			NT1		
52	フジミドリシジミ	土着	生息地狭小	◎			2			NT1		
53	オオミドリシジミ	土着		◎	☆		15			NT1		
54	エゾミドリシジミ	土着		◎	☆		20					
55	ハシミドリシジミ	土着(絶滅危惧)	生息地狭小	◎			7			NT2		危惧
56	トラフシジミ	土着		◎	☆	★	63					
57	カラスシジミ	土着(絶滅危惧)	生息地狭小	□			2			CR+EN		
58	ミヤマカラスシジミ	土着		◎	☆	★	81					危惧
59	コウハメ	土着		◎	☆	★	48			NT2		減少
60	ベニシジミ	土着		◎	☆	★	82					
61	ゴイシジミ	土着	生息地狭小	◎	☆		10					

NO.	科・種名	現在の生息状況	備考	富士山 他	環境資 源調査	本調査 記録 データ	環境省 2000	東京西部 1998	埼玉 2002	神奈川 1995	長野 1983	
62	クロシジミ	土着 (絶滅危惧)	生息地狭小	◎	☆	★	13	CR+EN		CR+EN	EX	
63	ウラナシジミ	土着 (越冬出来ず)	侵入のみ	◎	☆	★	34					
64	ヤマトシジミ	土着		◎	☆	★	20					
65	ゴマシジミ	土着		◎	☆	★	91	VU			EX	
66	ルリシジミ	土着		◎	☆	★	198					
67	スキクニルリシジミ	土着		□	☆	★	5					
68	ツバメシジミ	土着		◎	☆	★	163					
69	ヒメシジミ	土着		◎	☆	★	247	NT	EW	CR+EN	EX	
70	ミヤマシジミ	土着		◎	☆	★	39	VU	EW	CR+EN	危惧	
71	アサマシジミ	土着		◎	☆	★	99	VU		EX	EX	
72	ウラキーンシジミ	土着	分布拡大	○	☆	★	22					
テングチョウ科												
73	テングチョウ	土着		◎	☆	★	97					
マダラチョウ科												
74	アサキマダラ	土着 (越冬出来ず)		◎	☆	★	110					
75	カハマダラ	迷蝶	侵入のみ				1					
タテハチョウ科												
76	ヒヨウモンチョウ	土着		◎	☆	★	113	NT		EX		
77	ウラキーンズシヒヨウモン	土着		◎	☆	★	93					
78	オオウラキーンズシヒヨウモン	土着		◎	☆	★	69					
79	ミドリヒヨウモン	土着		◎	☆	★	176					
80	クモクダヒヨウモン	土着		◎	☆	★	59				減少	
81	メスグロヒヨウモン	土着		◎	☆	★	26				減少	
82	ウラキーンヒヨウモン	土着		◎	☆	★	143					
83	オオウラキーンヒヨウモン	絶滅	侵入のみ	◎			3	CR+EN	EW	EX	EX 貴重	
84	キンホシヒヨウモン	土着		◎	☆	★	80					
85	ツマグロヒヨウモン	迷入?	侵入のみ	○	☆	★	9					
86	イチモンジチョウ	土着		◎	☆	★	172					
87	アサマイチモンジ	土着		◎	☆	★	64		EW		減少	
88	コムシジ	土着		◎	☆	★	184					
89	ミスジチョウ	土着		◎	☆	★	20			NT2	減少	
90	オオミスジ	土着		◎	☆	★	8				危惧	
91	フタスジチョウ	土着		◎	☆	★	126		EW			
92	ホシミスジ	土着		◎	☆	★	221				危惧	
93	サカハチチョウ	土着		◎	☆	★	64					
94	キタテハ	土着		◎	☆	★	141					
95	シータテハ	土着		◎	☆	★	81					
96	エルタテハ	土着		◎	☆	★	17					
97	ルリタテハ	土着		◎	☆	★	130					
98	キハリタテハ	土着		◎	☆	★	10					
99	ヒオトシチョウ	土着		◎	☆	★	63			VU		
100	クジヤクチョウ	土着		◎	☆	★	144					
101	ヒメアカタテハ	土着 (越冬出来ず?)		◎	☆	★	41					
102	アカタテハ	土着		◎	☆	★	53					
103	スミナカシ	土着		◎	☆	★	24				減少	
104	コムラサキ	土着		◎	☆	★	39			NT1	減少	
105	ゴマダラチョウ	土着?	侵入のみ?	○	☆	★	6					
106	オオムラサキ	土着?		◎	☆	★	16	NT		VU	減少	
シヤノメチョウ科												
107	ヒメウラナシシヤノメ	土着		◎	☆	★	182					
108	シヤノメチョウ	土着		◎	☆	★	190			NT2	減少	
109	ツマシロウラシシヤノメ	迷入?	侵入のみ?	◎			2			NT1	減少	
110	ヒメキマダラヒカゲ	土着		◎	☆	★	49					
111	クロヒカゲ	土着		◎	☆	★	35					
112	ヒカゲチョウ	土着		◎	☆	★	12					
113	キマダラモトキ	土着		◎	☆	★	55	NT		EX	危惧	
114	ヤマキマダラヒカゲ	土着		◎	☆	★	54					
115	サトキマダラヒカゲ	土着		◎	☆	★	27					
116	ヒメシヤノメ	土着	生息地狭小	◎	☆	★	6					
117	コシヤノメ	土着	生息地狭小	○	☆	★	6					
118	ウスイロコノマチョウ	迷入	侵入のみ				1					
119	クロコノマチョウ	土着	分布拡大	○	☆	★	29					
データ数					2868	856	8304					
							/8409					
富士山北部で記録された種数					114	104	76	119				

◎：北部地域に分布 ○：北部地域以外に分布 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT, NT1, NT2：準絶滅危惧 危惧：絶滅危惧種 貴重：貴重昆虫